

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和2年度第3回草津市社会教育委員会議
日 時	自 10時00分 令和3年3月24日(水) 至 11時30分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委員：横山委員(委員長)、長橋委員(副委員長)、橋本委員、北川委員、 内田委員、湯浅委員、山本委員、藤内委員、矢野委員、山田委員、 磯嶋委員、澤村委員、中瀬委員 事務局：南川総括副部長 生涯学習課 上原課長、矢野係長、井上主任 図書館 二井副館長 傍 聴 人：なし
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有(別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無

1. 副部長挨拶

2. 委員長挨拶

3. 議事・報告事項

1) 報告事項2 オンライン講演会(3月12日～14日)結果について

資料6により事務局から説明。

<事務局説明>

・令和3年3月12日～14日まで正置友子先生による講演会をオンラインで配信し、合計123名の方に受講いただいた。

・受講後のアンケートで、地域活動に参加するうえで、ハードルに感じることを伺った結果、「時間がない」「活動している知り合いがない」「活動している団体を知らない」との回答が上位であった。

2) 議事1 実践体験および地域活動について

資料1、2、3、4により事務局から説明

<事務局説明>

実践体験について(資料2、資料3)

- ・実践体験の目的は「受講者に実際の活動を体験いただき、地域活動に繋げるステップアップとすること」「受講者の学びのアウトプットにより、学習の定着を図ると共に実際の活動に関わることで、地域での活動を行うモチベーションアップにつなげること」の2点
- ・実践活動のポイントは「身近な活動であること」「達成感を持つこと」「その後の地域活動とつながりのある体験であること」の3点
- ・実践体験で入っていただくのは市や教育委員会の事業で、乳幼児健診での活動や、学校での活動、各種催事での活動を検討している。
- ・滋賀県生涯学習課が「おうちで読書推進事業」として、ブース出展の事業を行われている。来年度は、草津市をモデル市町のひとつとして事業を進めたいという打診があり、実践体験の場としても検討したいことから、モデル市町を受ける方向で調整をすすめたい。

地域活動について(資料4)

- ・実践体験の後、市がマッチングを行い様々な地域活動に人材を繋げていきたい。
- ・マッチングを行った地域活動を長く続けていただくことで、様々な交流が生まれ、更に活動の幅が広がり、ひいては「地域づくり」や「まちづくり」に繋がっていくと考えている。例えば、養成した人材が学校図書ボランティアとして活動をされ、活動を続ける中で、他の学校の事業に参加されたり、地域の活動に参加されることになる、あるいは、自ら団体を組織され、まちづくりセンターでの活動を始められることや、学校運営協議会の委員として、活躍されること等がストーリーとして想定される。
- ・様々な活動が「地域づくり」「まちづくり」に繋がっていくためには、長い時間がかかると思うが、養成した人材に活動を続けていただくことが、大切だと考えているので、活動の持続性が担保される方法など、委員の皆様から御意見をいただきたい。

(A 委員)

活動を続けることも大事だが、人によっては一度やってみたいという人もいますので、そういう人にとって持続的な活動はハードルとなってしまいかもしれない。「自身の可能性を高める」「自身のスキルアップ」が社会教育の基本と思うので、そこをアピールしていけば、参加しやすいかもしれない。1回の活動が上手くいって、その結果、活動が継続することもあるかもしれない。

(B 委員)

ボランティアの方を受け入れる側の視点になるが、「時間を守ること」を大事にしてほしい。受け入れる側としては、様々な予定があるなかで、ボランティアの方に活動いただく時間を用意することになるが、時間が超過すると予定が崩れてしまう。受け入れる側としては、時間を守っていただけるボランティアの方の方が受入続けたいと感じる。

(C 委員)

具体的な仕組みとして、マッチング機能を有した事務局を設置する方法があると思う。市内の退職された教員や保育士等が登録し、必要に応じて事務局が様々な活動に人材を派遣するという体制が整えば、活動が継続していくと思う。

(D 委員)

ボランティアの方を受け入れたとき、その方の気持ちが強すぎて、予定時間をオーバーしてしまうことなどが多々ある。ビジネスライクな関係であれば、指摘はできるが、ボランティアであるが故に、気を遣ってしまうこともあるので、講座の中でそのような点に注意するよう触れていただきたい。

生涯学習課でゆうゆうびとバンクという登録制度を持たれていると思うが、例えば「読み聞かせ」というカテゴリーを作るなど、今回の取組を活用して、さらなる活性化を目指してほしい。

また、赤ちゃんの駅という制度の登録のインセンティブとして、保育士や栄養士の派遣をされているが、インセンティブのなかに読み聞かせのボランティアを派遣する項目を入れるなど、既存の市の事業との連携を検討してほしい。

(A 委員)

ボランティア活動を行うにあたって時間を守ることは基本だと思うが、逆に本人の好きなように読み聞かせができる場所があっても、ボランティアの方の良い経験になって面白いかもしれない。

(E 委員)

地域での活動は様々な団体関わっている。まちづくり協議会の関係の団体、町内会、自治連合会、青少年育成部会、地区の社会福祉協議会、民生委員などがあり、様々な活動が行われている。まちづくりセンターに登録して活動されている方も多いが、独自に活動されている方もたくさんいるので、どんな団体があるのかを把握していくことも大切だと思う。

(F 委員)

ボランティア活動は自分のスキルアップに繋がるということを強調するべきだと思う。

自分の経験からも、活動を通してたくさんの人の意見を聞くことで社会力が上がったと感じている。

(G 委員)

実践体験の目的として設定された「アウトプット」はとても大事だと思う。また、成功体験を積んでいくことも大切。

活動を始めてもらうときに「地域づくり」や「地域課題の解決」を出しすぎると、躊躇してしまう人もるので気を付けて進めるべきだと思う。活動を長く続けていただくためには「楽しさ」が必要。自分のスキルアップも含めて楽しく活動を続けていたら、活動が発展して、いつも間にか地域づくり・まちづくりに繋がっていた、というイメージで事業が展開されていくと良いと思う。モチベーションを保つ

てもらうために、表彰など”褒める”作業を行うのも市の役割だと思う。

また、資料1の一番下の項目で地域づくり・まちづくりへの「寄与」と表現されているが、行政からの目線だと思うので「参画」という表現の方が適当だと思う。

(H 委員)

学校図書ボランティアの活動をしている。以前は固い活動という印象を持たれていて、なかなかメンバーが増えなかったが、例えば「本の整理だけ」「読み聞かせだけ」でもいいと、緩やかな要件で募集をかけたところ、登録が増えているいろいろな活動が出来ているので、そのような募集の仕方も大事だと思う。また、市内各小学校に地域コーディネーターが配置されているので、各コーディネーターを起点に、養成した人材を活動に繋げていくこともできると思う。

(I 委員)

読み聞かせの活動だけで、地域活動に繋げていくのは難しいと思う。養成した人材がさらに専門的な知識を学び、ステップアップしていく中で、徐々に地域づくり・まちづくりに参画していく形がよいと思う。

(J 委員)

ボランティアの養成にあたって、決められた正しいやり方はないと思う。本人が学んで、経験して、失敗して、ステップアップしていくものなので、活動に参加するにあたっては、様々な面でハードルを下げて、参加しやすい環境を整えることが大切だと思う。

(K 委員)

体験の後に、ボランティアの方が情報共有できる機会をつくると、新しい繋がりが出来て、スキルアップにつながると思う。

(副委員長)

持続性にもいろいろなレベルがあると思う。個人が活動を続けていくという意味の持続性と団体の持続性。個人の持続性の観点からいうと、モチベーションの面や、やりたい活動ができる団体に属しているかなどが大切だと思う。あるいは、昔に読み聞かせの活動をしていた方が、活動に戻ってこられるような講座・機会を用意することで、再開可能性を高めると、広い意味での個人の活動の持続性は担保されると思う。

組織としての持続性でいうと、ボランティアの団体同士の交流や勉強会などを市の主催で開催していくことが大切だと思う。

質疑・その他

(D 委員)

来年度は新しくキラリエが供用開始になる。また、コミュニティ事業団や社会福祉協議会が入居することとなるが、キラリエの活用や中間支援組織との連携も重要になってくると思うが、どのように考えているか。

(事務局)

中間支援組織との連携は、みらくるカレッジ構想において重要なポイントなので、キラリエの活用も含めて中間支援組織との連携も検討していきたい。

(A 委員)

PTA 活動からはじまり、約19年様々な活動を続けているが、19年前の自分に「活動が続けると地域づくり・まちづくりに繋がる」といっても、共感できなかったと思うので、目的を見据えつつも、周知の方法には注意が必要だと思う。

(委員長)

資料1で「養成講座→活動→地域づくり、まちづくりへの寄与」と示しているが、活動と地域づくり・まちづくりの間の「ステップアップ」や「マッチング」が重要なポイントになってくると思う。
委員の皆様の意見を基に、今後の進め方について事務局でよく検討をいただきたいと思う。

3) 報告事項1

資料5により、事務局から養成講座の募集を4月17日まで行っている旨を説明

4. その他

事務局から今後のスケジュールについて説明

閉会